

外傷×内因をシームレスに
つなぐ次世代ハイブリッドER

contents

- ・がんと診断されたら、一度はチェック
- ・地域連携研修会の報告

CHECK

がんと診断されたら、一度はチェック



山梨県立中央病院
がん相談支援センター
看護師長
齊藤 亜弥子

がん相談支援センターは、がんと診断された患者さんや支える人が、治療や生活、仕事やお金のことなどについて相談できる窓口です。当院では、院内外を問わず、どなたでも利用できる体制を整えています。

「相談」と聞くと、治療が始まってから利用するもの、あるいは困りごとが大きくなってから相談する場所というイメージを持たれる方も少なくありません。しかし、第4期がん対策推進基本計画では、がんと診断された早い段階から相談支援につながることの重要性が示されています。がんと告げられた直後は、頭の中が真っ白になり、医師の説明が十分に理解できなかったり、誰に何を相談してよいか分からなくなったりする時期でもあります。そんな「最初の戸惑い」の段階から、一度立ち止まり、医療者と一緒に情報を整理したり、確認したりできる場として活用されています。

寄せられる相談には、「医師の説明をもう一度整理したい」「治療と生活のバランスをどう考えればよいのか知りたい」といった声が多くみられます。また、「がんゲノム医療と言われたが、そもそもゲノムとは何なのか」「自分に関係があるのかだけ知りたい」といった、最初の戸惑いの段階の相談も増えています。当院は2023年より、がんゲノム医療拠点病院として、県内でがん遺伝子パネル検査を受けられる体制を整えており、当センターでは、医師の説明と協働しながら、患者さんや支える人が納得して選択を考えられるようお手伝いしています。相談は結論を急ぐためだけのものではなく、安心して話ができることで「次にどう進むか」を見つけていくプロセスでもあります。

当センターは、患者さんや支える人だけでなく、地域でがんを支える医療者や多職種の皆さまからの相談にも対応しています。状況に応じて関係部署や支援先につなぎ、一緒に連携しながら、治療や療養が途切れぬよう整えることも役割の一つです。また、個別相談に加え、同じ経験を持つ方と語り合える場として、がんサロンの取り組みも行っています。がんとともに生きるということは、入院治療の期間だけを指すのではなく、その人の生活や社会とのつながりを含めた人生全体に及ぶものです。がん相談支援センターは、診断期だけでなく、治療や療養、社会復帰など、必要な時に何度でも立ち寄れる場所として機能しています。

がんと診断されたら一度チェックしてほしい場所として、地域の皆さまと自然に関わり続けられることを願っています。



地方独立行政法人山梨県立病院機構

山梨県立中央病院

YAMANASHI PREFECTURAL CENTRAL HOSPITAL

患者支援センター

〒400-8506 山梨県甲府市富士見1-1-1

TEL.(直通)055-253-9000/FAX.(直通)055-251-7733

外傷×内因をシームレスにつなぐ 次世代ハイブリッドER

— あらゆる重症救急疾患に対応する Y-HEROS —

Yamanashi Hybrid Emergency Radiology and Operation Systems



山梨県立中央病院
高度救命救急センター
統括部長

岩瀬 史明

当高度救命救急センターは、山梨県唯一の救命救急センターとして県内全域の重症救急患者さんの受け入れ、初期治療を行う使命を担っています。この度、重症救急患者に対する診療の質とスピードを最大化することを目的に、新たにHybrid Emergency Room System (HERS) を中核としたハイブリッドER「Y-HEROS (Yamanashi Hybrid Emergency Radiology and Operation Systems)」を整備しました。本システムは、従来の外傷診療に特化したハイブリッドERの枠を超え、外因性・内因性を問わず、あらゆる重症救急疾患に対応する次世代型初療プラットフォームです。

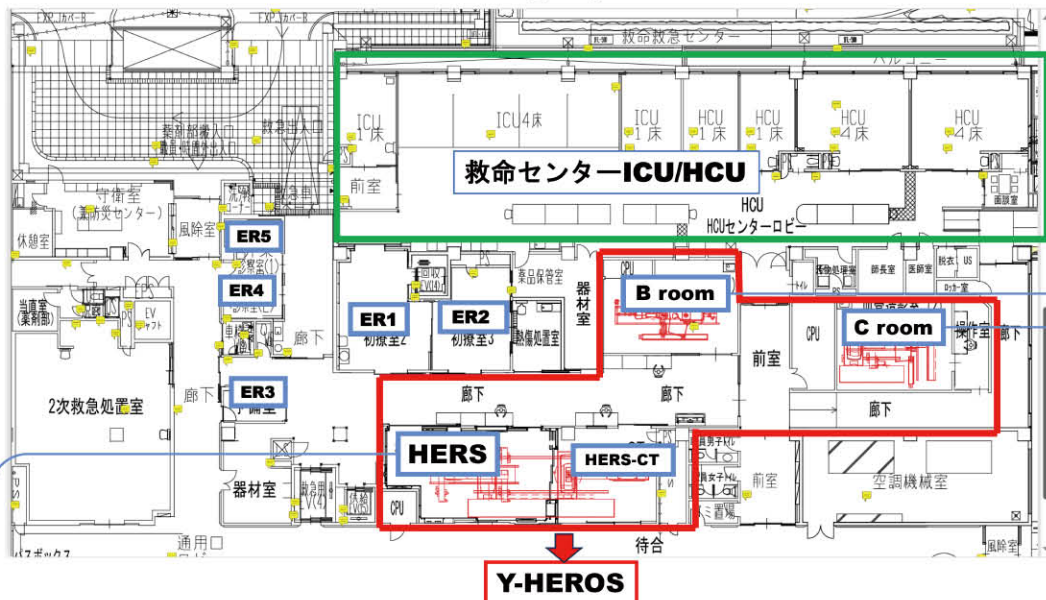
Y-HEROSでは、救急患者の初期診療、画像診断、Interventional Radiology;IVR、緊急手術を院内の患者搬送なしで連続的に実施することが可能です。これにより診断遅延や治療中断を最小限に抑え、重症患者に対する definitive care への到達時間を大幅に短縮しています。

当センターでは、救急科が診療の窓口となり、外傷・中毒・熱傷・その他の外因性疾患に加え、急性心筋梗塞、脳卒中、急性呼吸不全、循環不全、心肺停止(CPA)といった内因性の時間依存性疾患についても一元的に受け入れを行っています。病院前情報に基づきHERS入室適応を判断し、疾患横断的に標準化された初療を提供しています。

Y-HEROSは、以下の3つの機能ユニットから構成されています。

高度救命救急センター

Emergency and Critical Care Medical Center



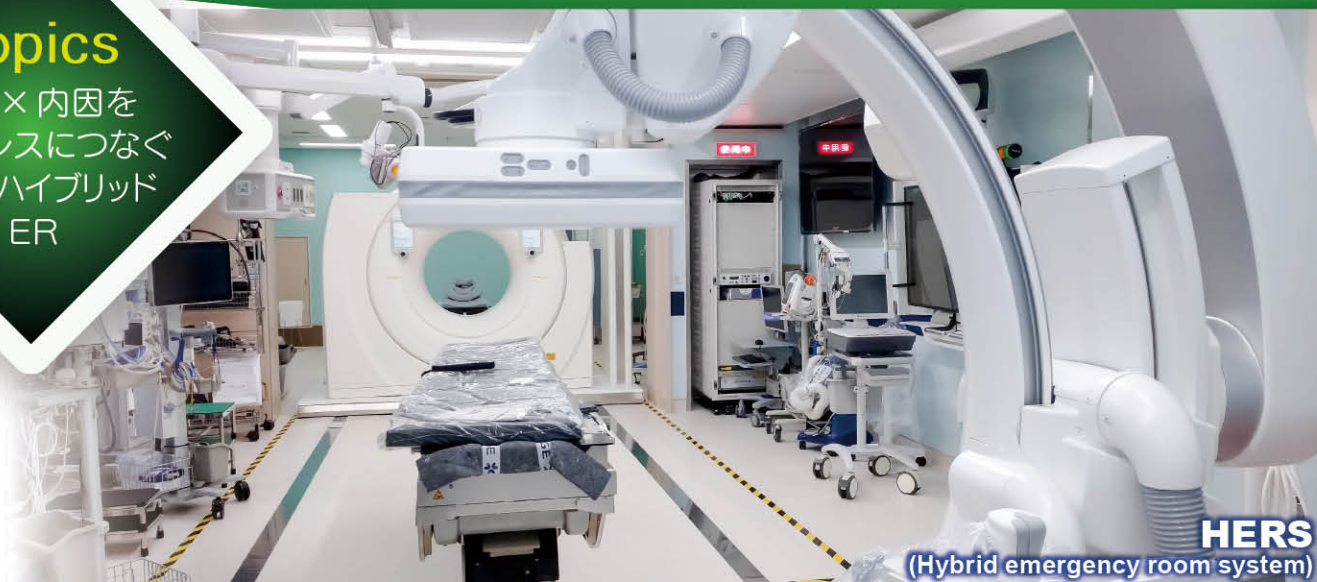
Y-HEROS (Yamanashi Hybrid Emergency Radiology and Operation Systems)
HERS (Hybrid Emergency Room System)
B Room (Biplane Angiography Room)
C Room (CT-Angiography Room)

HERS

HERS (Hybrid ER) では、重症外傷に対して全身CT撮影を含めた原因検索を行い、治療と診断を同時進行させることができます。カテーテルやドレーン挿入時にはX線透視を使用することができ、体幹部の出血に対して迅速な止血が必要な場合には、その場で開胸・開腹手術も可能です。また、必要に応じてIVRを組み合わせる治療が可能です。蘇生中のCPA症例に対してはX線透視装置を使用して体外補助循環装置(ECMO)をその場で安全に導入することができます。

Topics

外傷×内因を
シームレスにつなぐ
次世代ハイブリッド
ER



HERS
(Hybrid emergency room system)

B room

B room (Biplane Angiography Room) は、脳虚血性疾患に対する血栓回収術のみならずその他の脳血管内治療と急性冠症候群 (ACS)、致死性不整脈に対するPCI (経皮的冠動脈インターベンション) などに対応します。HERSでECMO導入となった患者に対して同じエリアで迅速にPCIが可能です。



B room
(Biplane angiography room)

C room

C room (CT-Angiography Room) では、CT検査を組み合わせながら迅速な全身評価と治療方針の決定を行い血管内治療や経皮的ドレナージなどが可能です。



C room
(CT-Angioroom)

このような診療環境により、Y-HEROSは外傷専用ERではなく、内因・外因・高度蘇生を統合する包括的ERとして機能しています。HEROSフローに基づき、胸痛、呼吸困難、意識障害、循環不全など多様な主訴に対して迅速な初療と病態評価を行い、IVR、手術、集中治療室、血管撮影室などへの円滑な移行を実現しています。

また、HERSは2 room仕様になっているため、CT装置は救急患者さんに使用していない時には予定患者さんの検査を隣接した部屋で実施することが可能となっています。

当センターは、以前よりドクターヘリおよびドクターカーを24時間365日運用しており、病院前から医師・看護師が介入する体制を構築しています。病院前診療で得られた情報と初療戦略をY-HEROSに直結させることで、院外から院内まで一貫した救急医療を提供し、山梨県全体の救命率向上に寄与しています。

ハイブリッド ER 導入後、当センターでは、CT撮影開始時間や止血・治療開始までの時間短縮、患者移動減少による医療安全性の向上など、診療プロセスの改善を認めています。特に多発外傷、循環動態不安定例、CPA症例において、チーム医療の効率化と治療の質向上が図られています。



当センターは今後も、Y-HEROSを基盤として、外因性、内因性救急を融合した診療モデルの確立、診療実績の検証とエビデンス創出、さらに人材育成と地域連携の強化を進め、地域および広域救急医療の中核としての役割を担っていきます。

地域連携研修会が開催されました

2025

12.4 THU

「コミュニケーションから変わるファミリーセンタードケア」

長野県立こども病院 新生児科 部長 小田 新 先生

「家族の力を最大限に活かせる！」

～CCトレーニングを経て、私と長野こどもNICUに起きた変化～

長野県立こども病院 新生児病棟 八田 佳奈恵 看護師



長野県立こども病院が実践する「ファミリーセンタードケア（家族中心のケア）」の理念と、家族を主役としたコミュニケーションの重要性についてご講演いただきました。フィンランドでの研修経験に基づき、家族の主体性を多職種が連携して引き出す医療のあり方や、その具体的な取り組みを共有していただきました。当院

における今後の診療や多職種連携に活かしていきたいと考えております。

2026

1.28 WED

「令和7年度 第1回 虐待防止研修会」

山梨県社会福祉士会 鈴木 勝利 先生



虐待基本講座として、虐待防止法概要や虐待類型、早期発見義務と通報等について講演いただきました。

児童、高齢者、障害者は養育・療育等の関係性から逃げられない状況が多く、早期発見に努めなければなりません。虐待者や被虐待者に自覚がないこともあります。虐待を疑うような場合は複数の目で客観的な判断を行い、虐待予防や養護者支援の視点からも

行政機関に連絡・相談することが望ましいとのこと説明がありました。

次回研修会

Web研修会

Zoomでの開催

2026

日時: **3月25日(水)**
18:30~19:30

次世代ハイブリッドER:
Y-HEROS運用開始

山梨県立中央病院
高度救命救急センター
統括部長

岩瀬 史明 医師

研修会の情報は
ホームページでも
ご案内しています。



講演会・研修会

紹介状のある初診患者さんは、患者さんご自身による電話予約や、かかりつけ医によるFAX予約ができます。 FAX. 055-253-2903

当院では、日頃よりかかりつけ医を持っていただくことをお勧めしています。

体調に変化があったときはかかりつけ医に相談の上、紹介状(診療情報提供書)を持って受診してください。

紹介状のある初診患者さんは、初診の予約ができます。予約をすることで初診はさらにスムーズになります。

電話予約の流れ

1 かかりつけの 医院を受診

紹介状をもらってください

2 専用ダイヤルにお電話

以下にお電話ください

☎ **055-253-7900**

9:00~17:00 月~金(祝祭日除く)

①紹介状 ②電話診療予約申込書
③当院の診察券(お持ちの方は)

お電話前に
準備して
ください

3 受診当日

ご予約30分前に総合案内にお越しください

お持ちいただく物

①紹介状 ②電話診療予約申込書
③保険証 ④当院の診察券
⑤受給者証(老人医療、公費等該当する方)

MRI検査(放射線診断科)の予約について

下記をご確認の上、ご予約をお願いいたします。

体内金属の有無についてご確認いただき、診療情報提供書に記載をお願いいたします。

「MRI対応ペースメーカー」が留置されている患者様は、適応判断のため検査前に当院ペースメーカー外来(循環器内科)の受診が必要になります。



詳細は当院ホームページ(QRコード)をご確認ください。

当連携だよりは、再生可能電力(CO2排出排出ゼロ電力)で印刷されています。

